

多

## 極化時代に生きる海外日系人社会と日本 — 持続的成長に向けた連携 —

24の国・地域より179人が一堂に 第54回海外日系人大会開催

「グローバル人材としての日系人の可能性」について議論

代表者会議でシンポジウム

第54回海外日系人大会が、去る10月29日より10月31日までの3日間、東京都千代田区永田町の憲政記念館、JICA市ヶ谷ビルで行われ、24の国と地域から179人の日系人が一堂に会した。

初日に行われた歓迎レセプションには、秋篠宮同妃両殿下が御臨席になり、参加した日系人と親しく懇談された。

懇親会に先立ち講堂で「特別上映と講演会」が開催され、第二次世界大戦中のアメリカ日系二世の証言で構成された「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」と、3日間で20万人を集めたサンパウロの日本祭りを記録した「世界最大の日本祭り＝ブラジル、フェスティバル・ド・ジャポン2013」が上映された。

「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」のすぎじゅんいち監督は、アメリカでの日系人の強制収容、第二次世界大戦での日系二世部隊の活躍、MIS（陸軍情報部）の二世たちが果たした役割を、それぞれ描き劇場公開した三部作から、高校生向けに同作をまとめたいきさつや、日米の高校、大学に同作品DVDを配布する活動について、また映画の制作にあたり多くの日系人が協力したこと等について語った。

「日本祭り」の主催者であるブラジル日本都道府県人会連合会園田昭憲会長は、ブラジルの日本語教育界で活躍するブラジル人教師に日本で研修してもらう制度の必要性や、日本企業の、より積極的なブラジル進出を訴えた。

今年のテーマは「多極化時代に生きる海外日系社会と日本—持続的成長に向けた連携—」とし、二日目の代表者会議では、経済好調の中南米や、世界の成長センターであるASEAN地域等に日本の企業の目が向けられる中、それら地域に在住する日系人と日系進出企業がどのように互恵関係を築けるかについて議論が行われた。

午前はシンポジウム形式で行われ、(株)ソニーで、アメリカ、ブラジルの現地法人の代表を務め、同社取締役、ベネッセコーポレーション社長等を歴任した、M.PRO-CONSULTING代表の森本昌義氏(当協会理事)が、「グローバル人材としての日系人の可能性」と題し、「日本人は多様な文化の存在に寛容性と



代表者会議でのシンポジウム(10月30日 JICA市ヶ谷ビル)

謙虚さを持って接するべき。今が変革の時で、変化に適応しなければ生き残れない。海外、国内の日系人は、その変革と一緒に参加してもらいたい」と述べた。

また、元浜松市長で、外国人集住都市会議を創設。東京外大多言語・多文化教育センター教授等を歴任し、現在は浜松海の星女学院理事長の北脇保之氏(当協会理事)が、「在日日系第二世代の挑戦」と題して、幼少時に来日し、親の都合で、ブラジルと日本を行き来しながらも、日本で大学に進学した者や、様々な職についているデカセギ子弟の実例を紹介。「日本社会は、在日日系第二世代のもたらす多様性を、新しい活力にしていけるべき」と結んだ。

厚生労働省職業安定局派遣・有期労働対策部外国人雇用対策課堀井奈津子課長、文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室永井雅規室長からは、それぞれ日系人の就労環境、教育の現状と政府の施策について発表があった。

午後は、「海外日系社会と日本」「在日日系人」「日系ユース」の分科会に分かれ討議が行われ、「大会宣言」を採択。三日目の全体会議で発表した(3頁に全文掲載)。

最終日の31日には4回目となる「在日日系人子ども発表会」が行われ、茨城県つくば市のブラジル人学校インストウト・エドゥカレ校から、小学校の部、中学校の部、高校の部それぞれの代表が自分の将来の夢について日本語でスピーチした。正午より伊吹文明衆議院議長、山崎正昭参議院議長主催による昼食会が行われ3日間の大会の幕を閉じた。